

# 障害児への理解と支援の必要性を知ってもらおう

『知能』、『認知』の発達を療育の柱とする発達理論から解説し、障害児にとって必要な発達支援を療育の実践内容にそって説明した冊子を作成し、地域の関係機関に配布した。冊子を読んだ人達が、障害児にどの様に関わり、どの様な支援が必要かを認識してもらえよう、啓発活動に取り組んでいる。

京都府

社会福祉法人

みねやま福祉会

〒629-2251 京都府宮津市字須津950-120 (すずらん)  
TEL : 0772-46-0216 FAX : 0772-46-6470

## ○法人設立年/昭和27年

## ○法人実施事業

- ①経営施設数合計：12施設  
②経営施設・事業【種別毎の数】：  
乳児院…1、児童養護施設…1、保育所…2、障害児通園施設（児童デイサービス事業）…2、精神障害者地域生活支援センター…1、特別養護老人ホーム…2、老人短期入所事業…2、老人デイサービス事業…2、在宅介護支援センター…1、老人居宅介護等事業…2、居宅介護支援事業…2、簡所、訪問入浴介護事業…1、身体障害者居宅介護等事業…1、児童居宅介護等事業…1、知的障害者居宅介護等事業…1、認知症対応型老人共同生活援助事業…2、小規模多機能型居宅介護事業…1、子育て短期支援事業…2

## ○法人の理念・経営方針

- <理念>  
・創設の理念を尊重し より質の高い福祉サービスの提供  
・地域の人々の ところ豊かで安心・安全な暮らしへの貢献  
・誇りと夢を持ち 福祉の仕事にまい進できるような職員の幸福追求  
<サービスの質（品質方針）>  
・私達はサービス提供のすべての場面で「管理より生活を」大切にします  
・常に正しい情報の把握と提供に努め  
・自分が受けたいサービスの提供・改善に努めます

## ○取り組みの法人での位置づけ等

事業所の年度計画に『地域貢献の取り組み』として位置づけ、法人内の同事業を実施している2事業所で取り組んでいる。

## ○取り組みを実施している施設の概要

- 【施設名】  
宮津与謝障害児通園施設すずらん/障害児通園施設さつき園  
【施設種別及び利用定員】  
児童デイサービス事業所 1日定員：各10名

## ○活動内容

- ◇活動開始年：平成8年10月  
◇活動の対象者：  
地域の保健師、保育所・幼稚園など子育て支援機関に携わる関係者並びに事業所利用の保護者  
◇活動の頻度・時間：  
冊子発行までの約9ヶ月間（2事業所）で担当者を決め、掲載する記事の決定、編集、校正を行う）

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

私達の事業所では、障害児に対する支援の柱を『ことば』、『運動』、『ところ』の3つに置いている。障害児の認知発達促進においては、個々に応じた段階を踏んだ特別な訓練が必要であると考えている。また『ところ』の支援においては、「障害児も定型発達児も同じ」と考える。しかし、障害児の発達支援において、社会性や身辺自立を身につけることが最優先されるあまり、認知発達の支援が置き去りにされてしまうことがある。一方で『ところ』、『しつけ』という面においては、「障害があるから…」、「言ってもわからないから…」と関わりに迷いが出てしまうことがあることを、保護者や保育所の保育士との連携の中で感じていた。こうした背景には、障害児の認知の発達、子どものところの発達が十分に理解されていない部分があるのではないかと考えられた。そこで、私達が柱としている発達理論を解説し、実践内容を具体的に紹介することにより障害児の理解と支援の必要性を啓発することになるのではないかと考えた。

## 実施内容

障害児に必要な発達支援を、私達が実践する療育内容を紹介する形で、1冊の冊子にまとめ700部作成し、2事業所が事業の対象地域の関係機関（地域の保健師、保育所、幼稚園等）に配布した。

この冊子に載せた文書は、保護者に療育の内容を分かり易く伝えることを目的として、毎月発行している園だより『お母さんご存知ですか』というテーマでシリーズ化して掲載してきたものである。障害児の発達を理解し、どの様な支援が必要か再認識してもらおう機会を持つことができれば、地域で生活し療育を受けている子ども達、そして、その保護者に対する見方が変わってくるのではないかと考えた。また、療育を必要としながら特別な訓練を受けることへの偏見から、サービスを受けるに至っていない子ども達に必要な支援の提供がで

きる様になるのではないかと考えた。障害児に関わる関係者に対する啓発活動こそが私達療育に携わっている者にできる地域に向けた貢献活動だと考え、活動に取り組んだ。

冊子発行についても、第2号を発行していく予定にしている。今回をきっかけに私たちにできる地域貢献を更に考えていきたい。

### 活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

冊子を配布するために対象地域の保育所・幼稚園を一園ごとに訪問した。園に障害児を預かっている場合は更に具体的に園生活でできることを、そうでない場合においては『ちょっと気になる子』にどの様に対応するかを、訪問先の保育士は常に考えている様子であった。更には、子どもの発達の中でその子の『こころ』をどの様に受け止め、日々の成長を見守るかについては、障害の有無に関係なく保育士の大きな関心事であることも、訪問の際に感じた。

冊子に『こどもの発達理論』について記事を掲載しているのを見たある幼稚園の職員からは、「子どものこころ・発達について職員の勉強会をしてほしい。」と言われた。ある園では「この様な理論だった療育をしていることが、この冊子を見て分かる。自分の保育所にいる障害児にも是非通って欲しいと思う。保護者にこの冊子を見てもらい話してみたい。」と言われた。また、「職員が勉強したいと言っている。冊子を更にもらえないか。」との希望もいただいた。地域の保育士にとっては役立ててもらえる一冊になると感じた。

### 今後の課題及び展開

職員は実践を通して、あるいは研修で、また、スーパーバイザー(臨床心理士・臨床発達心理士)と定期的な勉強会を繰り返す中で、多くの学びの場をいただいている。それを利用者に返していく為に、療育場面の質の向上、更に、家庭療育の為に保護者向け読みものの配布や学習会の開催等に取り組んできた。

私達は、障害児の発達促進を目指した療育事業所であるので、対象は障害児とその保護者である。しかし、今回冊子を発行して感じたのは、障害児に携わる方だけでなく、乳幼児の保育に携わる方にとっても関心を向けてもらえるものであった。

### 主な経費や財源及び人員等

(年間あたり)

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
冊子印刷製本費	166,950円	施設負担額	83,950円
		補助金収入 (京都府福祉施設人材確保・サービス向上補助事業)	83,000円
<合計>	166,950円	<合計>	166,950円

- ・取り組みに係わった職員数 10名  
(職種等：施設長、指導員)

